

# 図書館だより

名古屋経済大学 図書館  
名古屋経済大学短期大学部

2009.4 Vol.57

Every extension of knowledge arises from making the conscious the unconscious.

## Library News

Our business in this world is not to succeed, but to continue to fail in good spirits.

Library News  
Library News  
Library News  
What is done can't be undone.

contents

### 目次

特集  
貴重本紹介

貴重本紹介シリーズ 9

## レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集 ウィンザー城王室図書館蔵



▲全4集あるうち、本学図書館には、第1集と第2集が収められている。

ルネッサンスを代表する画家であり、いまだ人々を魅了し続けているレオナルド・ダ・ヴィンチ(1452~1519)。代表作「モナ・リザ」など彼の絵画について語られるとき、絵に込められた

暗号や謎に注目されることが多いが、彼の作品の魅力は自らの作品に対して真摯に向き合い、追求し続けた人間性にある。ダ・ヴィンチを理解する上で「素描」は彼自身のアイデアや思いをひも解く大きな要素となる。研究熱心で好奇心旺盛だったダ・ヴィンチはおびただしい数の素描を残している。

この「レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集：ウィンザー城王室図書館蔵」は、イギリスのウィンザー城王室図書館が収蔵しているダ・ヴィンチの素描を4つの分類に整理し、岩波書店が部数限定で発行した貴重なものである。分類ごとに1冊にまとめられ、4部作となっているこの画集には、風景および自然を扱う習作、馬および他の動物、戯画および衣紋を含む人物の習作、さらに第4集の「その他の紙葉」には、紋章、科学上の研究ノート、水力学、建築および工学技術、地形図が含まれており、多岐にわたる分野の素描を見ることができる。また、素描が描かれた紙の裏側までも完全に原本複製されていることもこの画集の特長である。水の流れが作り出す渦や紋様の追究、人間と密接な関係をもつ馬への共感など、ダ・ヴィンチの非凡なる観察力とともに科学的視点や温かなまなざしまでも感じることのできる画集である。



▲「水の束の習作」デッサン表

### 随想 2

法学部准教授 美濃羽正康

### 国内外の図書館 3

短期大学部准教授 家接 哲次

### 読書ガイド 4

大学院会計学研究科教授 佐藤 敏昭

経済学部准教授 下村 尚司

経営学部准教授 谷川 毅

短期大学部准教授 寺田 泰人

### 学生コーナー 6

経営学部 山田沙央理

人間生活科学部 井上 莉那

法学部 彦坂ゆかり

経済学部 岡田 佑樹

### 図書館からのお知らせ 8



▲「女性の頭部と肩の習作」デッサン裏



短期大学部 講師  
藤田 雅也



## 虫？犬？猫？



法学部 准教授 美濃羽 正康

学生の皆さんは1週間に何冊ぐらい本や雑誌を手にするのだろうか。書店には、どのくらいの頻度で足を運ぶのだろうか。さらに、図書館はどうだろうか？

私が大学生の頃のことを振り返ってみると、教科書や専門書を除いてもかなりの出版物（小説や雑誌、マンガ本、実用書、等々）を読んでいた。今でもそうだが、出版物が好きなのだ。だからといって、いわゆる「本の虫」や「活字中毒」というのとは少し違うのではないかと思っている。もちろん本を読むことも好きなのだが、本がたくさんある場所に身を置くことで気分が良くなるのである。

休日などは、大型の書店で店内を徘徊するというのがお気に入りの時間の過ごし方である。いろいろな本のコーナーを巡り、気になる題名の本や雑誌を手にしては、パラパラとページをめくる。さっぱり内容がわからない医学、工学、自然科学系の専門書のコーナーも一応巡回する。旅行先でも、書店を見つげると、とりあえず中に入らないではいられない。まるで、犬のマーキングだと笑われたことがある。

とにかく、知らない本に囲まれるとワクワクしてくるといふ困った性分なのだ。したがって、図書館で時間を過ごすことも大好きである。本学の図書館はもとより、地元や妻の実家の近辺の公立図書館、非常勤講師をつとめている他校の図書館にも、別に用がなくても詣でるのである。犬山市の図書館にも何度かお邪魔している。

図書館が好きなの理由には、本がたくさんあるということの他にもう一つある。熱心に調べ物をしている人や一生懸命勉強している高校生の真剣な様子を見ていて、自分も学びたいという意欲を駆り立てるパワーをもらうこ

とができるのだ。（雰囲気に流されやすいと言ってしまえば、身も蓋もないのだが。）そのため、夏休みや春休みなどは、名古屋市中央図書館や愛知県立図書館の机を借りて仕事をするのも、しばしばである。しかも、一人、研究室や自宅の勉強部屋で仕事をしている時よりもはかどることが多い。

なにも、研究室の居心地が悪いと言っているのではない。このことは、私の習性に因るところが大きい。私は、生来、落ち着きがなく飽き性である。一処でじっとして本を読んだり、思考したりするのが苦手だ。だいたい、2時間が限度である。

仕事だけではない。楽しみの読書も一か所でじっと読むということができない。いつも、勉強や読書に最適な場所を求めてさまよう。自宅でも、居間であったり、ダイニングテーブル、次は畳の上で寝ころびながら…といった次第だ。果ては、浴室であったりするのだ。さながら、快適な場所を求めて家中を移動する猫のようである。現にこの原稿の下書きも、家中をさまよった挙句、近所の喫茶店で書き上げたのであった。（いつも長居を許してくれる喫茶店の方々には感謝の気持ちで一杯だ。）

その点、図書館は、私にとって都合の良い場所である。机がたくさんあり、移動も思いのままだ。

私は、学生の皆さんに、勉強や読書、暇つぶしに最適な場所として、図書館を強くお勧めする。特に、本学の図書館は、かなり居心地の良い空間を提供してくれている。一度、行って体験して欲しい。ただし、くれぐれも「静粛」に。そして、普段あまり行ったことがない書架の本を眺めてみてほしい。意外と、興味を引く本に出会うことができるものだ。



ノーリン図書館  
コロラド大学ボルダー校  
Norlin Library  
University of Colorado at Boulder

短期大学部 准教授 家接 哲次

▼ノーリン図書館 外観



現在(2009年2月)、アメリカ合衆国コロラド州にあるコロラド大学ボルダー校の心理学部に客員研究員(visiting scholar)として留学(1年間)しています。

メインキャンパスが位置するボルダーは、デンバー(コロラド州の州都)から約50キロ離れたロッキー山脈のふもとにある人口約10万人の町で、便利さ・治安の良さ・天候の良さ(ほぼ毎日晴れです)・美しさなどからアメリカの中で最も住みたい町の1つといわれています。日本でも、高橋尚子や有森祐子など有名マラソン選手の高地合宿地として有名な場所です。

大学は、1876年に創立された州立の総合大学(生徒数約2万9千人)で、天体物理学、航空宇宙学、経営学、心理学などが有名です。これまでノーベル賞受賞者も何名か輩出しており、パブリック・アイビー(名門公立大学)の1つに数えられています。キャンパス内のほとんどの建物がイタリアのルネッサンス調に統一されており、アメリカで最も美しい大学の1つと言われています。広大なキャンパスの中には、食堂・売店・レクレーショ

ンルームなどの設備が充実した学生寮が散在し、5万人収容のアメリカンフットボールスタジアム(試合がある日は、町中から大学のロゴ入りシャツを着た人たちが集まって来て、大騒ぎしています)、早朝6時から夜中の1時まで開館しているスポーツジム、1日2万人以上が利用すると言われている巨大なカフェテリア(コンビニエンスストア、銀行、ブックストア、ボウリング場など併設)、劇場などあり、キャンパス自体が1つの町のような感じがします。

キャンパス内には合計6つの図書館(Business, Earth Sciences/Map, Engineering, Math/Physics, Music, Norlin Library)がありますが、その中で最大の図書館がNorlin Libraryです。地下1階地上5階立てのこの図書館には、約1,100万冊にものぼる書籍、雑誌、政府関係資料、地図などが保存されています。館内にはセミナールームの他に、コンピュータールームなどありますが、至る所に多数のパソコンが設置されているため、検索や本の予約などにとっても便利です。またワイヤレスでインターネットに接続ができるため、館内に各自のノートパソコンを持ち込んで、検索&レポート作成をする学生も多数います。この図書館は特に定休日もなく閉館が真夜中のため、多くの学生が朝から夜中まで連日熱心勉強しています。また有り難いことに館内には小さなコンビニエンスストアあり、スナックやドリンクなどを購入することができるため、長時間滞在する学生にとってはとても便利です。



▲正面玄関(工事中)

浅田 次郎 著

『霞町物語』

(278 頁) (講談社)



大学院会計学研究科 教授  
佐藤 敏昭



世代限定のマーケティングが盛んですね。「R30」の音楽とか「アラフォー」(アラウンド 40)のファッション雑誌とか。ボクらの世代は 50 代後期「ロク・テマエ」になります。

『霞町物語』は、「ロク・テマエ」のオジサンの青春期を描いた短編集です。「霞町物語」「夕暮れ隧道」「青い花火」「すいばれ」などの各編において、当時の若者の音楽やファッションを背景にした登場人物の多感な心模様が描かれています。

団塊の世代は何事にも先進的に開拓していった世代ですが、ボクらの世代はいつも迷いながら、結局は先輩達に追随していくしかなかった。そうどちらかというと、光の部分よりも影の部分を多目に背負った世代なのです。作者の浅田さんは、ここら辺の甘酸っぱさを強調しているかのようです。

『霞町物語』にはあまりにも懐かしいフレーズが出てきます。迷惑かもしれませんが、ボクらの世代が少なからず共有しているイメージを抜き出してみました。

音楽編

ジミヘンドリックスが、ドアーズのジムモリソンが立て続けに死んだ・・/リズム&ブルース世代のぼくらは・・/PPMのピーターか、ポールだかに似てねえか・・

クルマ編

N コロ (ホンダの軽自動車 N360) のギアをシフトダウンして・・/ブルーバード SSS (日産の名小型車)・・/自慢の GTR(日産のスカイライン GTR)が棺桶になった・・

ファッション編

コンポラのスーツとタップカラーのシャツ・・/レジメンタルストライプのタイと、リーガルのローファー・・

吉田 武 著

『オイラーの贈物

—人類の至宝  $e^{i\pi} = -1$  を学ぶ—』

(516 頁) (筑摩書房)



経済学部 准教授  
下村 尚司



1993 年に出版された著書であるが、今もってその存在意義は失われていない。新奇をてらわず、新たな結果を紹介するでもない本書は、そもそも文系教養科目としての数学の講義を依頼されたことがきっかけとなっているようだ。ところが著者のこの著書に対する姿勢は、数学の総論的な話をするのではなく、あくまで理系の数学の一部を懇切丁寧述べるというものである。そしてそれがむしろ数学の文化を広く社会に伝えることとなった。

本書の主題であるオイラーの公式は  $e^{i\pi} = -1$  というシンプルなものだが、ネイピア数と呼ばれる自然対数の底  $e$ 、円周率  $\pi$  そして虚数単位  $i$  が相互に関係しているという形をしている。教科書としても読める本書は、他の本を援用しなくても読めるように配慮されている。テイラー展開などの説明も懇切丁寧で、精確さにおいても一般読者の要請に十分応えられると思われる。ややもすると読者を置き去りにしがちな数学書の中で、本書は紙数を費やすことを恐れず、パスカルの三角形や 2 次方程式の解法など、初等的レベルから懇切丁寧に説き起こし、円周率やネイピア数の近似値の計算など、数値計算例を交えながら、読者を納得させつつ数学の王道をゆっくりと歩んでいる風情がある。

計 126 ページに上る付録には、本文を補う証明や関連した話題が豊富である。幾つか例を挙げると、ユークリッドの互除法、素数が無数に存在することの証明、3 次・4 次方程式の解法などである。

## 読書ガイド

読書ガイドでご紹介した本は図書館にあります。ぜひご一読ください。

近藤 史恵 著  
合田カシリーズ

『カナリヤは眠れない』(282頁)

『茨姫はたたかう』(283頁)

『Shelter(シェルター)』(278頁)

(祥伝社文庫)



経営学部 准教授  
谷川 毅

私はミステリーが好きなのですが、私の場合謎解きは二の次、作品に登場する個性豊かで魅力的な人物たちの活躍が愉しみて読んでいます。

今回ご紹介するシリーズは、大阪ミナミの雑居ビルの日の当たらない屋上で接骨院を開業している、変わり者でも腕は超一流の整体師・合田力と、そこで働く心に深い傷を負った二人の美人姉妹の恵と茜、そしてその近くの出版社で雑誌の編集をしている小松崎雄大の四人を中心に話が展開します。

近藤文恵はこのシリーズで、過酷な現代社会のなかで依存症や過食症など精神的病理を抱え悩み苦しんでいる女性の姿を浮き彫りにしていきます。作品を追うごとに主人公たちの隠された過去も徐々にあきらかにされ、小松崎君と茜ちゃんの恋愛物語も紆余曲折をとめないながら進展していきます。

女性の側に立ちながらも決して同情はしない冷たさと、同じ目線でしっかり向き合うやさしさ。痛いのですが心がぎゅっとしめつけられる暖かさが彼女の作品にはあります。作品の中にはそこかしこに名ぜりふがちりばめられていて、思わず目尻にじわっと涙がにじむことがあります。

近藤文恵の作品には、ほかにモップの天使シリーズやフランス料理店シリーズなどがありますが、彼女の作品を読んでいると、とにかく登場人物に会ってみたいくなります。お店に行ってみたくになります。うちの近くに合田接骨院が開業してくれないものか。そしたら毎日のように通いつめ、このゆがみにゆがんだ身体と心を直してもらうのに、と切に思う今日この頃なのです。



柴谷 晋著

『静かなるホイッスル』

(250頁) (新潮社)



短期大学部 准教授  
寺田 泰人

みなさんは障害者のスポーツというところんな種目が思い浮かぶでしょうか？ 昨夏の北京パラリンピックにおいて国枝慎吾選手が金メダルを獲得した車いすテニスや車いすバスケットボールなどが最初に考えられるでしょうか。その他では視覚障害者による



柔道や水泳、義足をつけたスプリンターなど多くのスポーツがあがると思います。もともと障害者にとってのスポーツとは、戦争で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして「手術よりスポーツを」の理念で始まりました。また「パラリンピック」(Paralympic)の名称は、半身の不随 (paraplegic) + オリンピック (Olympic)の造語ですが、半身不随者以外も参加するようになったため、1985年から、平行 (Parallel) + オリンピック (Olympic) で、「もう一つのオリンピック」と解釈することになりました。

ところで本書は、聴覚障害者のラグビー= deafrugby (デフ：耳が聞こえない) について書かれたものです。ラグビーでは前方へのパスは許されません。したがってボールを前に運ぶには、持って走るしかありません。しかし、走ればいずれ敵につかまらず。その時はボールを味方につなぐことを考えなくてはいけません。球技を経験したことのある人なら分かると思いますが、パスをするときに最も大切なのは、いかに投げるかではなく、いつパスするか、つまりタイミングが重要です。その際、言葉によるコミュニケーションが困難な聴覚障害者にとって、それがいかに難しいか。ましてタックルを受けながらパスをつなぐのは、なおさらです。聴覚障害は実生活において、コミュニケーション障害という二次障害に直面します。ラグビーにおいても例外ではなく、コミュニケーションが円滑に出来ないことにより、プレイやプレイ以外の場面において自己アピールやリーダーシップの発揮、他のメンバーとの交流が難しいのです。本書は、自らも聴覚障害者である筆者が数々のエピソードをもとに日本におけるデフラグビーの歩みをあらわしたノンフィクションです。本書をきっかけにノーマライゼーションの実現ということを考えてみてください。また本書を読んでラグビーに興味を持った人は、ぜひ蓮池キャンパスのグランドで本学ラグビー部の活動を見に来てください。

「Rugby opens many doors (ラグビーは人生の多くの扉を開いてくれる)」



## 大平 光代 著『だから、あなたも生きぬいて』を読んで

経営学部 山田沙央理

この『だから、あなたも生きぬいて』は作者である大平光代さんが中学生の時に転校して、その転校先の学校でひどいいじめにあい、割腹自殺を図る。その後非行に走り極道の妻になって、背中に刺青を入れる、という私にとってとても衝撃的な内容でした。

転校先の学校でいじめにあい死にたいと思うことや学校に行かなくなって非行に走るまでは、他の小説などにもあるかもしれません。

しかしこの本は、全て大平光代さんの実体験で16歳のときに極道の妻になり、年上の組員の人達に少しでも認めてもらうために背中に刺青を入れたそうです。

極道の世界でもうまくいかず、離婚をして、だんだんお酒におぼれていくようなボロボロの生活をしていた時に、後に養父となる大平

浩三郎さんと出会いました。真剣に怒ってくれる大平さんに出会い、光代さんは変わりました。

「今までの復讐がしたいのなら、非行ではなく何か資格でもとってきちんとした生活をして周りのみんなを見返してやりなさい」と大平さんは言い、光代さんはその気になり宅建の資格を1回で合格し、次に司法書士、最後は資格の中でも最難関の司法試験を受験し見事に1回で合格しました。

私はこの本を読んで人との出会いは人間が生活していく中でとても大事なことなんだなあと思いました。たった1人の人との出会いでこんなにも人生が変わっていくなんてすごいことだと思いました。私も大平さんのようにな人になりたいと思いました。



## 赤川 次郎 著『ふたり』を読んで

人間生活科学部 井上 莉那

いつも側にいると思っていた人が突然いなくなってしまうとき、私なら泣き崩れて気丈にふるまうことはできないと思います。この『ふたり』の主人公、実加は、ある日、不慮の事故により、目の前で二つ上の姉が亡くなってしまいます。

母は精神的に病んでしまい、自分がしっかりしなきゃ、という気持ちから無理に笑うことが多くなりました。明るかった家族の面影もなくなってしまいました。

そんなある日、実加が変質者に襲われそうになったとき、突然、姉が頭の中に現れるのです。それから姉との共同生活が始まります。

親友の父親の死や同級生の自殺未遂、様々な事を姉と二人で乗り越えてきました。あるとき、父が北海道へ単身赴任。そんな時、実加を恨んだ上級生から家にいたずら電話があり、母が精神的に弱ってしまいます。父親の

浮気もあって、さまざまな困難を二人で乗り越えていく物語です。

私には双子の姉がいます。いつもは喧嘩ばかりでいらないている姉だけど、実際に目の前でいなくなってしまうのは嫌です。どんなに喧嘩をしても、嫌だ嫌だと言っている、世界にたった一人だけの姉妹です。代わりなんていないのです。

私はこの本を読んで改めて家族の大切さ、兄弟のつながりの強さを学びました。この世にいない人なんて一人もいない。誰かに必要とされているから生まれてくるのだということも改めて感じました。また、これからはいつ、どこで、何が起こるかかわらないという思いで、家族との日々の団欒の時間を大切に、毎日を過ごしていきたいと思いました。



## 安田 雪 著『大学生の就職活動』を読んで

法学部 彦坂ゆかり

**もうすぐ**3年生に進級し、いよいよ就職活動をはじめめる学年になります。しかし、就職活動と言ってもなにをすべきなのか分からない…そんな時にこの『大学生の就職活動』という本を見つけました。

私はこの本を読んで、たくさんのことを学びました。具体的には、企業についての情報の得方、学生がよく選ぶ企業、入社するための制度とその特色等がありました。その中で特に参考になり、今後の就職活動で活かすようにしたいと思ったことは、多くの企業から内定をもらう学生の特徴でした。この本から、多く内定をもらう学生の特徴として、男女を問わず健康・前向き・礼儀正しい印象を他人に与えることができ、理論的に明晰な会話のできることで、そしてある程度の自分の持つ知識・能力・

性格を他者に伝達する能力を持つ者である。また、この資質は学業成績や知能とは必ずしも相関関係があるわけではないということがわかりました。



私は以上の事をこれからの就職活動に活かせるように早い時期から自分を研ぎ、目標を達成できるよう、資格を取得していきたい。また、早めに就職活動をすることによって、企業の情報を多く入手することで企業に対する視野も広げることができます。そして何より残りの学生生活を有意義に、今だからしかできないことをすることが可能になると思います。

これから就職活動をする学生、未だ内定を取れないでいる学生がこの本を是非参考にし、自分にとって悔いのない進路に進んでいただきたいと思います。

## 小川 洋子 著『博士の愛した数式』を読んで

経済学部 岡田 佑樹

**80分**で記憶が消えてしまう数学者（博士）とある母子（家政婦として雇われた女性とその子供）との交流の物語です。

博士が、完全数の特徴を話していたのが印象に残りました。

博士の説明を聞いた後では、無味乾燥な数字は表情を持ち始めます。私も中学で素数を習った時に、素数はそれ以後の数学の勉強には直接には役立たないが、たまに不思議とその意味を考えてしまう数字とを感じるからです。

博士が素数の虜になったのはどういう秩序で出てくるのか説明できない気紛れさ加減ではないかと思います。

博士は主人公に語ります。『自分が生まれるずっと以前から、誰にも気づかずにそこに存在している定理を掘り起こすんだ。神の手帳

にだけ記されている真理を一行ずつ書き写してゆくようなものだ。その手帳がどこにあって、いつ開かれているのか、誰にも分からない』



主人公が、博士の過去を探っていた時にその記憶の奥には美しい恋の物語が秘められていました。最初は近寄り難くみえた博士も、子供との交流の中で別人のような側面を見せます。それは、発明とか作り上げた美しさやあたたかさではなくて、すでに存在していて、主人公がそれを見つけたんじゃないかと思いました。ぼんやりと見ていたら気づかない世界の美しさは、分け入ってみれば、初めて見えてくることができるのではないのでしょうか。

この作品はとても面白くいろいろ考えて読むことができ、心温まります。ぜひ読んでください。

## 新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます

これから卒業するまでの2年間、もしくは4年間の学生生活の中で多くの出会いがあると思います。本との出会いもそのひとつです。より有意義な学生生活を送るために図書館を大いに利用してください。

2008年に図書館のホームページがリニューアルされ、新しいサービスも追加されました。ぜひ活用してください。資料の探し方に必要な検索方法・資料の取り寄せなど、不明なことは、サービスカウンターにお尋ねください。グループ・ゼミ単位の利用案内も受け付けています。

### ■視聴覚資料案内

図書館は図書と雑誌だけ閲覧するところではありません。視聴覚資料として、映画もあり、役立つ教材もあり、資格取得用資料もあります。

一例としてDVDを紹介します。

#### 『プロフェッショナル 仕事の流儀』

さまざまな分野の第一線で活躍中の一流のプロの「仕事」を徹底的に掘り下げたドキュメンタリー番組

もちろん名作や話題の洋画・邦画も揃えています。『ハリー・ポッター』シリーズは、映画だけでなく本もあります。全巻揃っていますので本も読みたい人は4階へ。



### 2階AVのモニターが新しくなり、より快適な環境で鑑賞できます。

〈利用について〉

1階カウンターに「AV資料目録」がありますので選択し、「AV資料貸出票」に記入し学生証と一緒に申し込んでください。(同時に4名まで利用可能)

\*教材用ソフトは「蔵書検索」で検索できます。

### ■絵本・児童書入荷しました

“回転書棚”設置しました

3階新刊コーナーに回転書棚を新しく設置しました。その書棚には、絵本・児童書約250冊がきれいに装備され、皆さんの利用を待っていますよ。

“紙芝居舞台”貸し出します(館内利用)

いま、「紙芝居」の魅力がクローズアップされています。乳幼児、児童に限らず、ナント！老人にまでその効用が確認されているとのこと。紙芝居舞台を使って、肉声と絵による「小さな劇場」を体験してみたいかですか。



図書館だより Vol.57 2009.4

発行所 名古屋経済大学 図書館 〒484-0000 愛知県犬山市樋池 61-22 TEL (0568) 67-3798 (代)  
名古屋経済大学短期大学部 図書館 ホームページ <http://www.nagoya-ku.ac.jp/lib/index.html>  
発行 年2回  
印刷所 株式会社 一誠社 TEL (052) 851-1171